

予告

次回
おしゃべりな
カナリヤ？

史穂里' パパ



6月17日…。まだ梅雨入り前の森合コートにおしゃべりなカナリヤがいた。

第1シード。山田優菜/八代麻耶…。

昨年の全中BEST16本で秋の新人戦県大会覇者だけに、第1シードは当然だが注目はその進化の度合い。1・2年生での東北大会突破、全中16本はみごとだが全中のレベル・厳しさを体感してきたことで山田/八代の脳裏にはあのレベルを如何に凌駕すべきかがあるはず…。

県北大会をウォーミングアップに使い県大会で都道府県選抜メンバーを一蹴し、東北大会で秋田県山王中を撃破して再び全中の舞台の扉が開く。全中で待ち構えるのは岡山就実・和歌山信愛・熊本鶴城の強豪たち。山田に課せられたテーゼはサーブの速さ、ロブの正確さ、トップ打ち、ショートクロス、ツイスト。八代にもスマッシュ、ハーフボレー、ポーチの精度をあげ存在感を高めること。会得すべきカテゴリーは山積している。

山田のテニスには相手との会話が見える…。おしゃべりの好きな小鳥のように…。

サーブ 『ねえ、お友だちになって？』
クロスロブ 『どんな、歌手が好き？』 『う～ん』
ストレート展開 『今度の休みにこない？』 『今度の休みはちょっと…。』
逆クロス展開 『じゃあ来週は？』 『来月なら…。』
トップ打ち!!! 『来月なんて、ダメよ』 ポイント1-0

個人戦1回戦。相手は、釧路中で伊達支部5位通過。どんなおしゃべりをするのか？注目。ところが相手は山田のお話しが聞こえないのか、聞く耳を持たないのかまったく会話にならず目一杯の勝負を挑んでくる。もっとも第1シードが相手だけに必死の形相でいきなりフルスロットル。これには山田も一瞬たじろぎ、第1Gを失うスタート。史穂里' パパも『ん！』と思ったが、山田はあくまで冷静…。2G・3Gを取ってからは相手につけいる隙をあてず完勝。G4-1

第2回戦。福大付属中の大友/五十嵐。(福島9位通過)ジュニア時代からの知り合いだけに相手も山田/八代という名前に負けてなすすべ無し。G4-0終了。

この試合あたりから山田がトップ打ちをしたがっているのが感じられる。そもそも山田はグランドストロークで打点をかなり下げて打つ選手で、それが彼女のスタイルなのだろうが、全中の頂点を狙うにはやはり、いろいろな技を取得する必要がある。その最大のテーマはやはりリトップ打ち。まだ成長段階の中学生に負担のかかるトップ打ちは疑問も残るが全中に出てくる選手のほとんどはマスターしている。

先日、史穂里がたまたま帰福した時に機会があり山田にトップ打ちとショートクロスを伝授？したが武器になるまではまだまだ時間がかかりそう。それでも東北大会までにある程度の完成をし、使えるように熟成させることで全中での活躍を予告させる。

第3回戦。相手は信夫中、佐藤/田中(福島5位通過)
相手も2回戦を勝ち抜き県大会出場を決めており、プレッシャー無く立ち向かってくるが山田/八代も十分エンジンがかかっていて横綱相撲のG4-0(P16-1)。

喫煙所で一息入れていると他の中学校の先生たちから『信陵中が5本エントリーでBEST8に全ペアが入っている。信陵中と当たらないことがBEST8への条件だよな〜』と弱気な発言。笹谷信陵ジュニア監督の小針氏が泣いて喜ぶような井戸端会議でした。

第4回戦。というよりも準決勝。BEST4は信陵中が独占していて同士討ち開始…。相手は、元ペア高橋/杉原。お互いに相手の戦術、技量は解っているだけに高橋/杉原も山田/八代を崩そうとするが、全て対応され歯が立たずここもG4-0。

この試合中から私の視線は、隣の10番コートにクギづけになる。決勝の相手と予想していた佐藤/赤間がリードされている。相手は同じ信陵中の加藤/本間。

(後衛佐藤は、鳴り物入りで信陵中へきた子で昨年の全国小学生大会でもかなりの成果を上げてきた選手。福島支部大会でも決勝で山田/八代と当たりG3-4で惜敗)

G2-3のリードを許し苦戦。加藤/本間にしても先輩の意地で勝利へ拘る。6Gを失い佐藤組敗退。山田へのリベンジのチャンスを失ったせいか佐藤の目に涙。佐藤の涙は10数分余止まらず、10コートから動けない…。千葉先生が近づき慰めるもまだ動けない。この子は只者ではない…。1年生にしてこの涙。大物です。

佐藤が決勝の線審へつく間、私はずっとこの子から目を離せませんでした…。山田の後継者誕生です。(もっとも山田はまだ2年生…)

決勝戦。信陵中の同士討ちですが、不満です。もっといい試合が出来たはずです。男子の決勝戦の様な熱戦を期待してました。1本の大事さ、気持ちの持ち方、気迫執念。県大会は期待します。